



平成28年度教育改革FD/ICT理事長・学長等会議
「学士課程教育の質的転換に向けた課題とICT活用を含む改革方策」

平成28年 8月 1日（月） 14:15-15:00

教員中心の授業科目編成から 学位プログラム中心の授業科目編成への 転換をめざす教学マネジメントの試み

梅澤 修*・曾根 健吾**

*横浜国立大学大学院工学研究院教授/副学長(教育改革担当)/高大接続・全学教育推進センター長

**横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター特任教員



話題提供の流れ

1. 横浜国立大学の概要と現状
2. 大学教育再生加速プログラムに採択
(テーマⅡ：学修成果の可視化)
3. 全学的な教学マネジメント体制の構築
に向けて
4. 学位プログラム中心の授業編成に向けて

※補足説明（当日）

成績評価の厳格化・見える化に向けた全学的な
取り組みとIR活動の推進

1. 横浜国立大学の概要と現状



横浜国立大学の概要（2016年）

- 学生数 7,438名（学部） + 2,403名（大学院）
- 専任教員数 596名
- 学部・学科 4学部 → 5学部（2017年度改組予定）
教育人間科学部 → 教育学部（改編），
経済学部，経営学部，理工学部（改編），
都市科学部（設置予定）
- 大学院 5研究科・学府
教育学研究科，国際社会科学府・研究院，
工学府・研究院，環境情報学府・研究院，
都市イノベーション学府・研究院

都市部に位置する中規模な国立大学

横浜国立大学 大学憲章

4つの精神

実践性

先進性

開放性

国際性

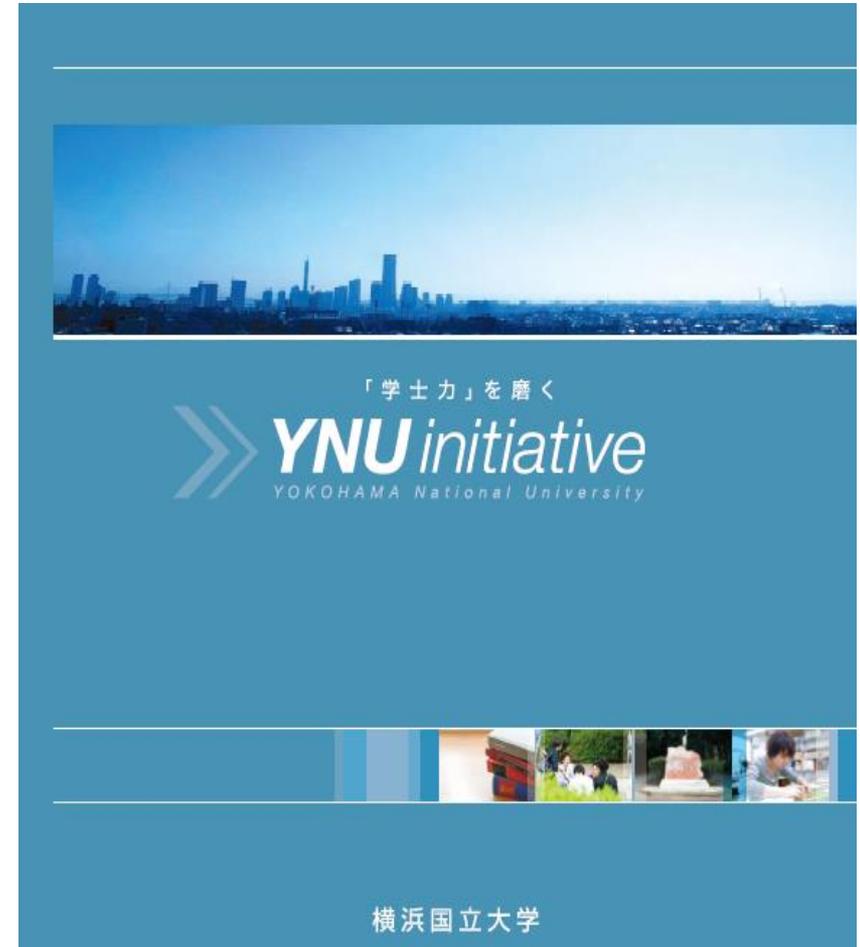
横浜国立大学は、透明性の高い組織と運営体制を構築し、計画、実行、評価のサイクルにより個性ある大学改革を推進する。



YNU initiative

『「学士力を磨く」 YNU initiative』は、横浜国立大学の学士課程における教育目標の達成のための「学位授与方針」, 「教育課程編成・実施」及び「入学者受入」の3つの方針 (policy) に加え, 教育の質の持続的向上をめざす Faculty Development (FD) の推進を含めた4つの方針について明確化し, 公表するもの。

<http://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative.html>



身につけて欲しい4つの実践的「知」

知識・教養

- ・専門分野に関する基本的な知識
- ・社会・文化・自然を関連づける幅広い教養

思考力

- ・問題解決のプロセスなどを構想する論理的思考力
- ・既存の枠組みに安住しない批判的思考力
- ・知識・技能を活かして新たな価値を生み出す創造的思考力

コミュニケーション能力

- ・適切な言語やメディア等を選択して、他者や異文化と積極的に交流しうるコミュニケーション能力
- ・多様な人々と協働して問題解決にあたるリーダーシップ

倫理観・責任感

- ・生涯にわたって学び続けようとする自己学習力
- ・積極的に社会参加しようとする意欲と責任感
- ・自己の利害のみにとらわれず人としてあるべき姿を自覚した高い倫理観

幅広い教養や確かな専門的知識などに基づいて、積極的に課題解決に取り組み、適切に判断する人材に求められる力

常に質の高い教育を提供するために

- 学位授与方針の改訂
 - 教育課程の改善
 - 入学者選抜方針の改訂
 - FD・SDの方針の見直し
- 等

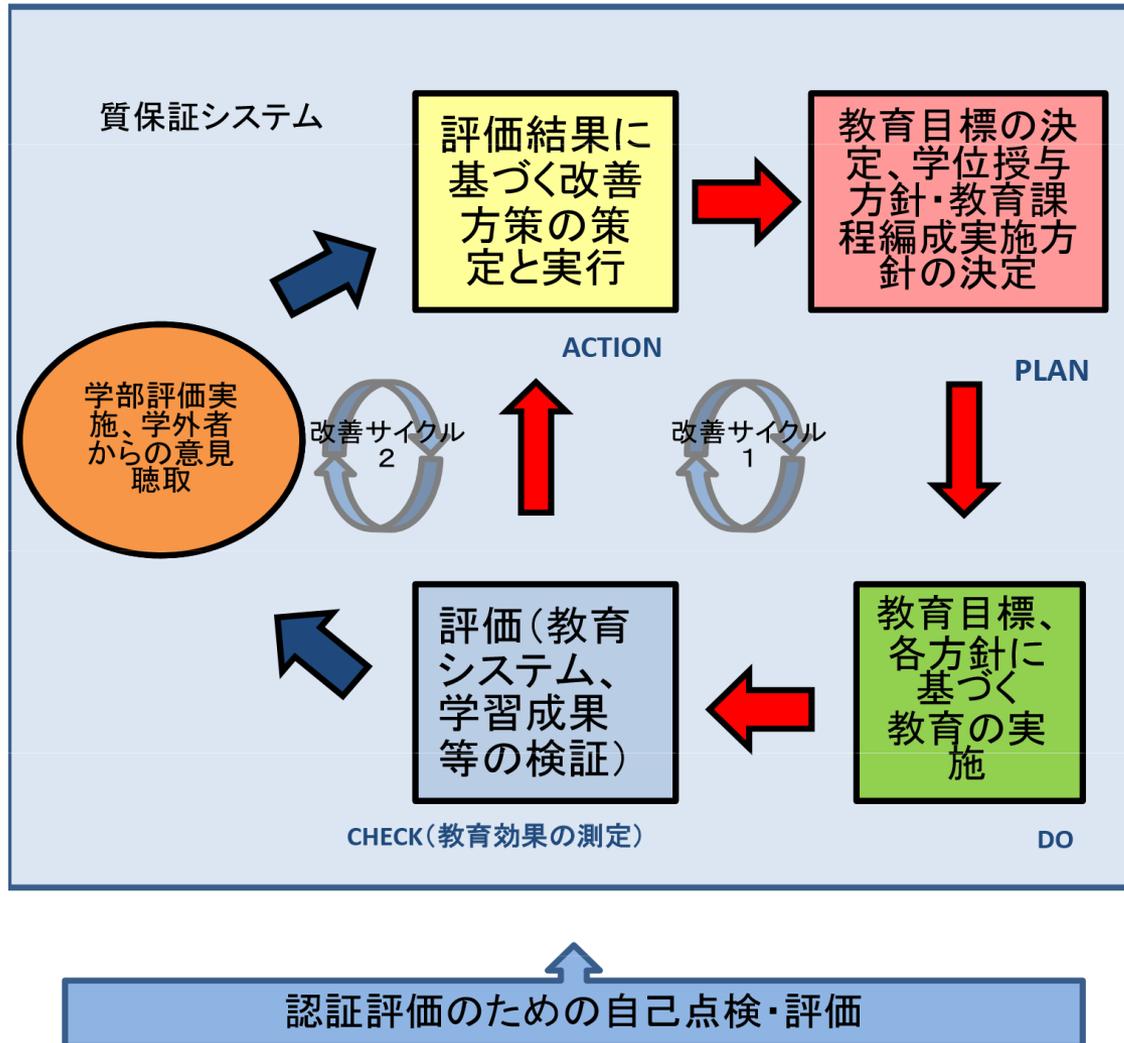


- 学位授与方針
 - 教育課程編成方針
 - 入学者受入方針
 - FD・SDの方針
- 等

- 学生の授業評価
 - 教員の自己点検・評価
 - カリキュラム評価
 - 教育業績評価
 - 就職先調査及び企業等へのアンケート
- 等

- 学位審査
 - 授業運営
 - 入学者選抜
 - FD・SDの実施
- 等

「YNU initiative」の実質化を推進



- カリキュラムマップによる履修到達度・課程編成の改善
- 学生の振り返りによる自己省察
- 卒業生アンケートによる分析
- 学生アンケートによる授業改善

これまでの内部質保証に向けた取り組み（1）

PLAN

教育目標と方針の決定、ディプロマ、カリキュラム、アドミッション、FDポリシーの策定

DO

教育目標、各方針に基づく教育課程の編成とその実施

CHECK

評価（教育システム、学習成果等の検証）

ACTION

評価結果に基づく改善方策の策定と実行

年度

H21				第2期中期目標・中期計画の策定（H22-27）
H21	H22			YNUイニシアティブ策定（全学版）
		H23		YNUイニシアティブ作成（学部版）
			H24	YNU大学院イニシアティブ策定（全学版）
				YNU大学院イニシアティブ作成（学府・研究科版）
H21				GPA/CAP制度（H15から導入）
	H23			学年暦1学期16週授業期間の設定
	H23			カリキュラムマップ策定（教育目標と授業の相関図）
		H24		YNUリテラシーの導入（初年次教育）
				カリキュラムツリーの策定（教育課程の体系化）
H21				学生授業アンケートの全学実施（H17から毎年）
H21				国立大学教育研究評価の実施
	H22			教養教育アンケートの実施（毎年）
		H23		教育改善（学生FD）スタッフ制度の創設
			H24	卒業生アンケートの実施（毎年）
			H24	学生ポートフォリオの構築（学修成果自己省察システム）
			H25	キャリアデザインファイルWeb化（H25から運用）
			H25	卒業生と就職先企業へのフォーカスインタビュー調査
			H25	社会人基礎力アセスメント（PROG）の試行
			H25	海外大学での学びアンケートの実施
	H22			学部教授会でのFD研修会を開始
		H24		教学IRチームによる学務データ分析に着手
		H24		キャリア教育と就職支援の機能を統合したキャリア支援部に組織改革
			H25	授業設計・成績評価ガイドライン策定に着手
			H25	YNU学士力の到達目標での統一表現基準化（Webシラバス改善）



項目	評価	改善	達成	未達成	未着手
教育目標	達成	達成	達成	達成	達成
カリキュラム	達成	達成	達成	達成	達成
授業	達成	達成	達成	達成	達成
評価	達成	達成	達成	達成	達成
改善	達成	達成	達成	達成	達成
支援	達成	達成	達成	達成	達成
その他	達成	達成	達成	達成	達成

W 学修成果のキャリアマップ

学修成果	キャリア	達成	未達成	未着手
基礎力	基礎力	達成	達成	達成
専門力	専門力	達成	達成	達成
社会力	社会力	達成	達成	達成
国際力	国際力	達成	達成	達成
総合力	総合力	達成	達成	達成
合計		5	5	10

V 学修成果検証など

これまでの内部質保証に向けた取り組み（２）

早期の段階より内部質保証に重点を置く

① 教育方針の明確化

(H21 YNUイニシアティブの策定 = ディプロマ・カリキュラム・アドミッション・FDのポリシー)

② 教育課程の体系化

(H23 カリキュラムマップ, H24 カリキュラムツリー, H25 シラバス改善 = 到達目標の統一化)

これまでの内部質保証に向けた取り組み（3）

③ 単位制度の実質化

(H15 GPA制度導入（卒業要件化，科目履修上限緩和要件等），H15 CAP制度導入，H21 学年暦1学期16週確保)

④ 学務情報とのシステム連携

(H14 教務事務システム，H25 学生ポートフォリオ，H25 キャリアデザインファイルWeb化)

FD・SD活動の推進

対話と場づくりを通して、
教職員の交流と教育改善の活動を全学に

教員（FD活動）

FDワークショップ，YNU教育フォーラム，教授会前
FDミニシンポジウム etc

職員（SD活動）

学びのひろば，おとなのための学びのひろば etc

学生（学生参加によるFD活動）

しゃべり場開催（学生・教員・職員の対話の場） etc

大学教育総合センターから 高大接続・全学教育推進センターへの組織改編

H28. 4. 1～

教育改善，教育の質向上を牽引

<新組織>

学生IR統括部門

- ・YNUイニシアティブ(DP・CP・AP)によるセンター学生IRの統括
- ・進路状況調査研究，進路先評価
- ・学生のキャリア形成，就職支援の全学的総合調整
- ・キャリアサポートルーム
- <校友会・同窓会との組織連携>

高大接続部門

- ・入試方法改善の学生IR
- ・新たな入試方法の開発
- ・入試広報の企画実施
- ・神奈川県内高校協議会
- ・高校生インターンシップ
- ・高大連携相談窓口
- ・高大接続学習プログラム
- ・Web出願システムの開発

全学教育部門

- ・教養教育改善の学生IR
- ・教養教育カリキュラム編成，シラバス作成，履修方法等全学的な総合調整
- ・全学リテラシー共通テキストの教材開発，総合調整
- ・副専攻プログラム，学外学修プログラム履修支援

教育開発・学修支援部門

- ・大学教育・学生支援の学生IR
- ・授業設計・成績評価(ルーブリック導入，シラバス改善)の企画実施
- ・ITC教材開発・アクティブラーニング
- ・キャリア教育開発，学修支援
- ・教員研修(FD)の企画実施
- ・学生の学修行動調査の企画実施
- <図書館，情報基盤センターとの連携>

<旧組織> 大学教育総合センター(H15～)

キャリア支援部門

入学者選抜部門

全学教育部門

FD推進部門

YNUがめざす学生IR (Institutional Research)

—主体的な学びの実現へ，学生の学修行動を重視するIRを志向—

- ・学務情報システム
- ・学生ポートフォリオ
- ・学生授業アンケート調査
- ・大学ポートレート（大学評価・学位授与機構Web）

従来の教学IR

+

学生にフォーカスしたIR

- ・キャリアデザインファイル
- ・学生生活行動調査
- ・大学IRコンソーシアム（学習行動調査）
- ・就業力アセスメント，自己チェックシート
- ・卒業生・就職先企業調査
- ・産業界人材ニーズ調査



入学者選抜から卒業・修了後まで
一貫して見通す学生IR

高大接続・全学教育推進センター規則（第2条抜粋）

大学教育の質的転換及び入学者選抜方法の改善のための**学生行動調査等を重視するインスティテューショナル・リサーチ**（以下「学生IR」という）

詳細は補足説明にて

**主体的学びの実現
社会が求める人材の輩出**



■ **大学教育の質保証**

- ✓ 授業の改善
- ✓ 全学教育の改善

■ **学生の主体的学びの醸成**

- ✓ ポートフォリオで学士力，就業力を可視化

■ **新入試制度の準備**

- ✓ 本学にふさわしい人材要件の明確化



2. 大学教育再生加速プログラム に採択 (テーマⅡ：学修成果の可視化)



大学教育再生加速プログラム



事業全体の概要（※H26採択）

学生の主体的な学びのデザイン

【YNU学生ポートフォリオ構築】

- 学修推移チェックシステム<修得単位推移, GP評価構成, 学修成長曲線等>
- 成績評価分析表示システム<GPA推移, GPA度数分布, GP構成図等>
- キャリアデザインファイルの統合<キャリア科目ビデオ配信システムとの連携>

YNU学士力の可視化

【教学IRシステム拡充】

- 教務事務システムデータを活用した学修成果の分析
- 成績分布図等の集計システム ●成績評価データ配信システム
- 大学ポートレートデータを活用した他大学比較分析
- 成績不良学生の早期抽出 ●留学生の在留管理

YNU就業力の可視化

【キャリア教育の再体系化】

- キャリア科目の再体系化 ●キャリア科目のビデオ教材化
- 産学連携型講座 ●グローバルキャリアプログラム
- グローバル人材ニーズ（卒業生インタビュー）調査
- 就業力アセスメント ●外国語検定試験の複数回実施

- ・在学生・卒業生アンケート
- ・学生の授業アンケート
- ・大学ポートレート/大学評価・学位授与機構Web

授業方法と成績評価の改善

【厳格な成績評価と卒業認定システム】

- GPA改革と運用基準の改訂 ●授業設計・成績評価ガイドライン作成
- ルーブリック導入とシラバス改善 ●カラーコードでのナンバリング化 ●FD/SD活動の推進

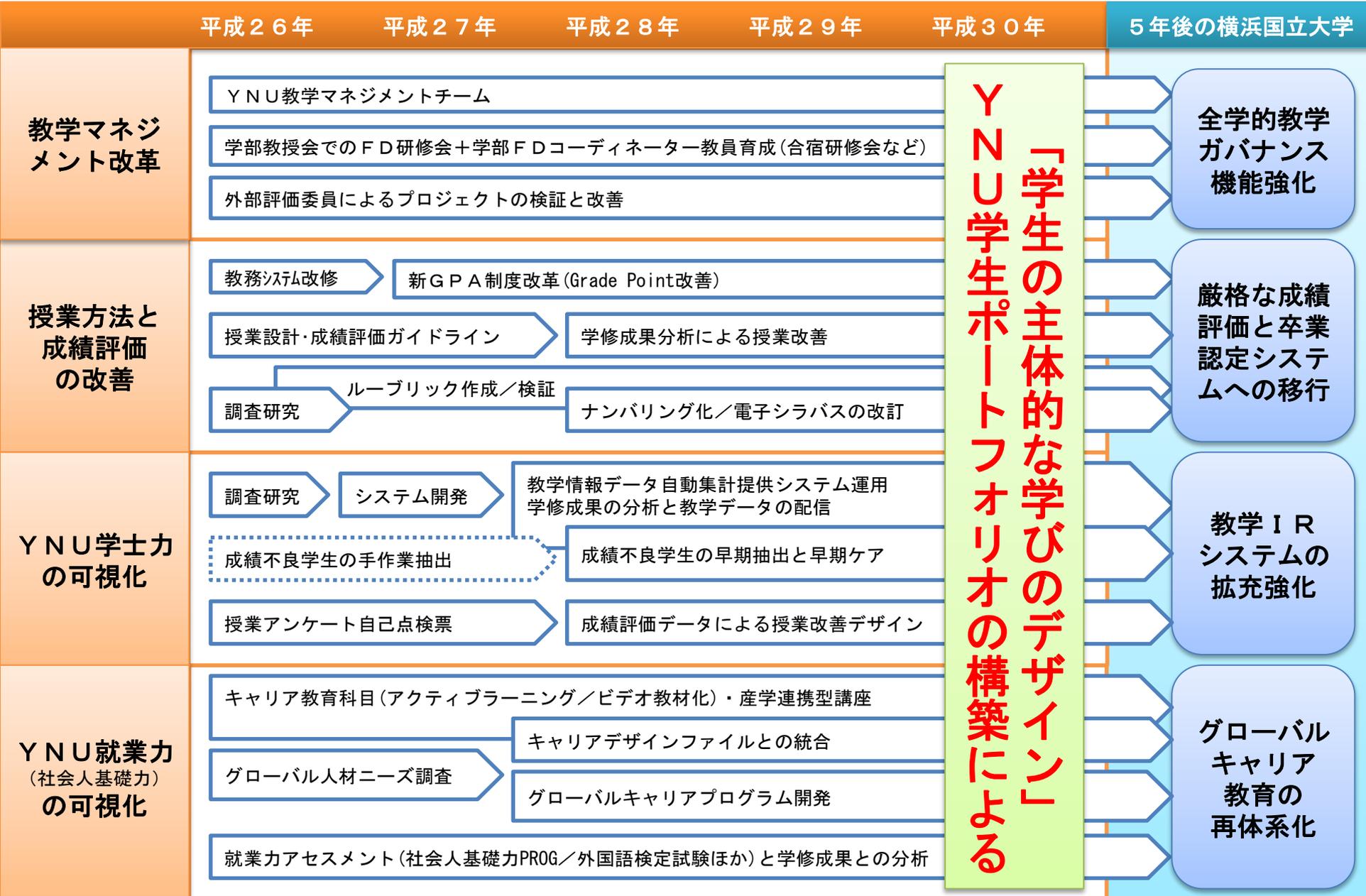
- ・外部評価委員会の意見
- ・グローバル企業の人材ニーズの把握
- ・卒業生/企業人事担当者フォーカスインタビュー

「YNU教学マネジメントチーム」により 大学教育改革を加速

副学長, 4学部教務委員長, 高大接続・全学教育推進センター長, 国際戦略推進機構基盤教育部門長, 学務部長

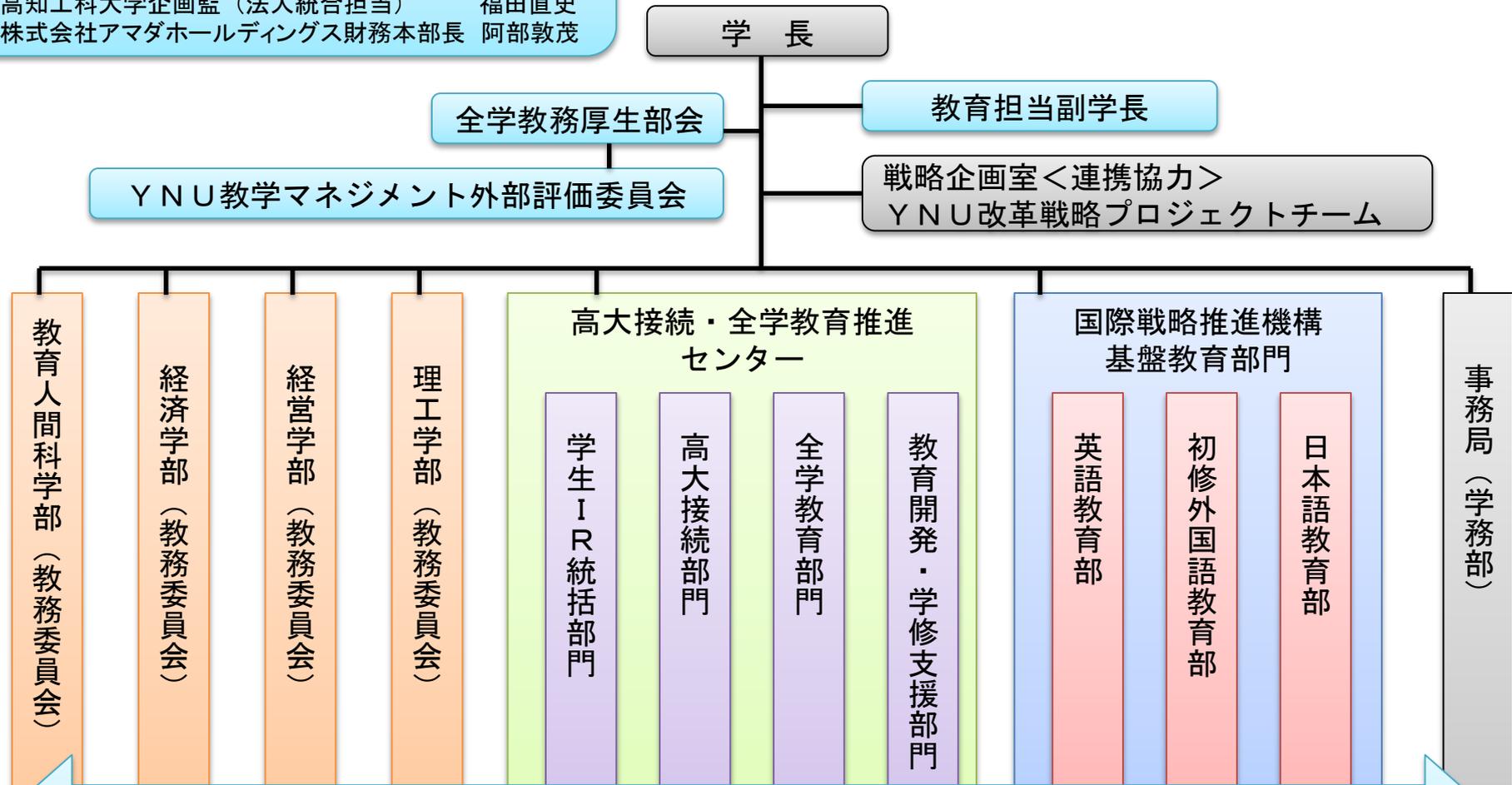
YNU学修成果の可視化<テーマⅡ>アクションプラン工程表

○学士力と就業力の可視化による学生の主体的な学びのデザイン構築プロジェクト



YNU教学マネジメント外部評価委員会

お茶の水女子大学教育開発センター教授 半田智久
 名古屋大学大学院国際開発研究科准教授 米澤彰純
 高知工科大学企画監（法人統合担当） 福田直史
 株式会社アマダホールディングス財務本部長 阿部敦茂



YNU教学マネジメントチーム

副学長(チーム長)・4学部教務委員長・高大接続・全学教育推進センター長, 教育開発・学修支援部門長, 学生IR統括部門長, 基盤教育部門長, 学務部長

<事務支援体制=学務部 教育企画課(プログラム支援室), 学生支援課, 入試課>

① 事業全体の牽引

- 毎月1回程度，大学教育再生加速プログラム会議をYNU教学マネジメントチームメンバー（各学部教務委員長等）出席のもと開催し，事業を推進
→全学的な教学マネジメントを推進
- 事業，取り組みの内容を広く周知するため専用のホームページを開設
(<http://www.yap.ynu.ac.jp/>)
- 取り組みの内容をA P / F Dニュースレターとしてまとめて定期的に刊行
→センターホームページで公開中
(<http://www.yec.ynu.ac.jp/>)

② YNU 学士力の可視化

- 授業ごとの成績評価分布，学生調査データなど，教員への自動集計情報提供システムの構築に着手
- 学生調査データ，教学データの分析による学生の学修実態，成長感の把握
- 学生による授業アンケートの活用（教学データとのクロス分析）
- その他，学内各種データ（特に学務情報）を活用した学修成果の可視化に向けて準備中

＜今後の課題＞

教学データの一元化に資する，IR 活動推進体制の拡充

③ YNU就業力の可視化

- 学生ポートフォリオの改修に着手
- 就業力アセスメント：1年生，3年生を対象に実施し，その結果を分析
 - リテラシーとコンピテンシーの2側面から就業力を測定
- グローバル人材ニーズ調査：海外に展開する企業を対象に実施
 - グローバル人材に求められるジェネリック・スキルを客観的に把握

<今後の課題>

キャリア教育の再体系化に向けた学修支援体制の確立と教学データの反映

④ 授業方法と成績評価の改善

■ FD・SD活動の積極的推進

→FDミニシンポジウム, 学生FD活動,
横浜市内大学合同FD企画

■ 平成27年度：授業改善と成績評価の厳格化, 見える化に向けて「授業設計と成績評価ガイドライン」を策定し, 全教員に周知

→詳細は補足説明にて

■ 平成28年度：カラーコードによる科目ナンバリングに着手（教育課程の体系化）

3. 全学的な教学マネジメント体制 の構築に向けて



教学マネジメントの現状

学位プログラム中心の授業科目編成を図るために

① 大学教育再生加速プログラム採択による教学マネジメントの推進

- 各学部教務委員長の参画による**教学マネジメントチーム会議**を構成
- 教員への自動情報提供による**学修成果の可視化**（学士力、就業力）
- 内容、成績評価など**授業科目の可視化と改善**（授業設計と成績評価ガイドラインの導入とシラバス改善）
- 教育課程の体系化（**科目ナンバリング**の導入）

② 組織的教育の推進

教学マネジメントのとらえ方

近年，中教審質的転換答申，教育再生実行会議，第3次提言などにおいて，「**教学マネジメント**」が繰り返し言及されている。

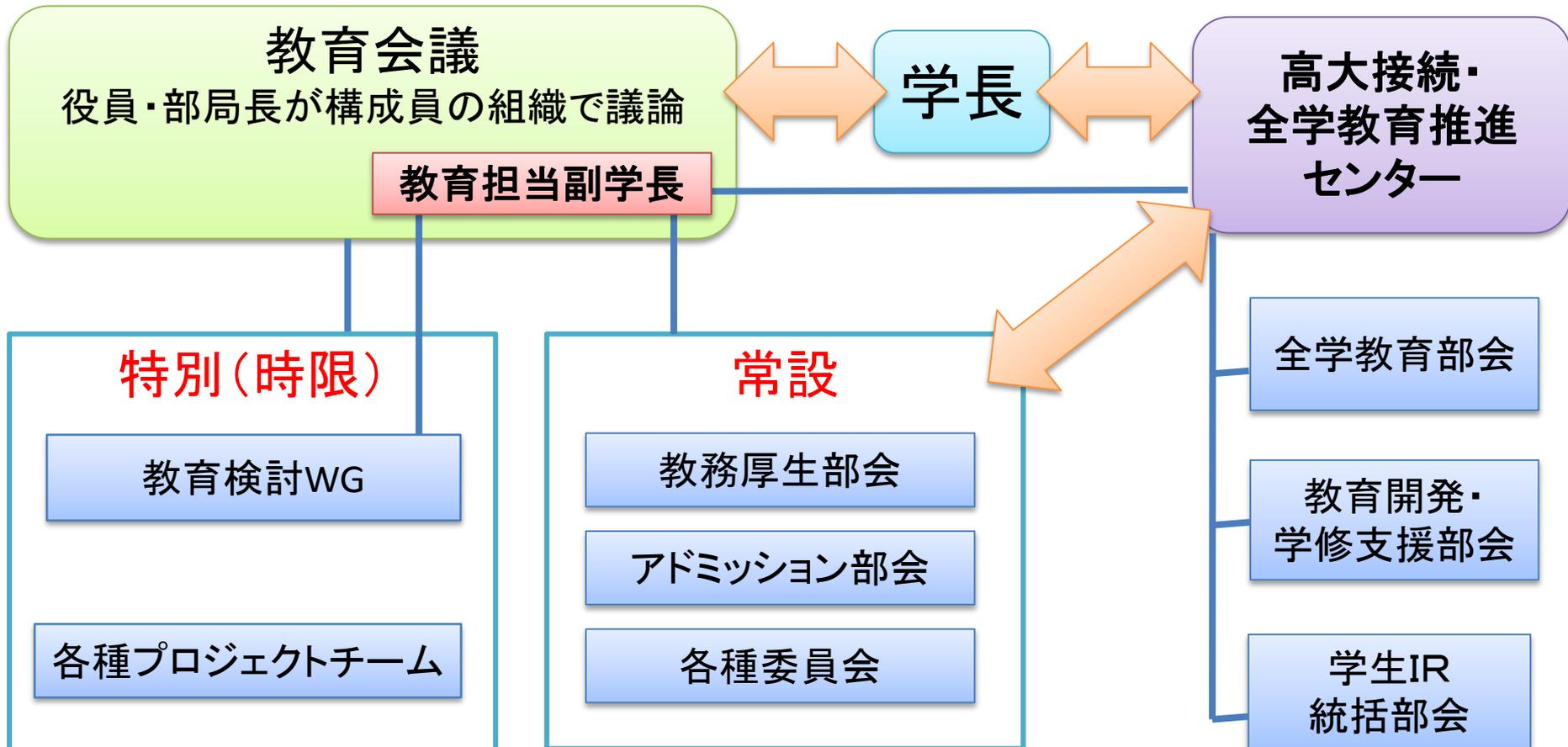
ここでは

「**教学マネジメント**」は，大学のポリシーに合致した学修及び教育活動により得る成果を組織的に追求する取り組みと理解



教学マネジメント体制の概要

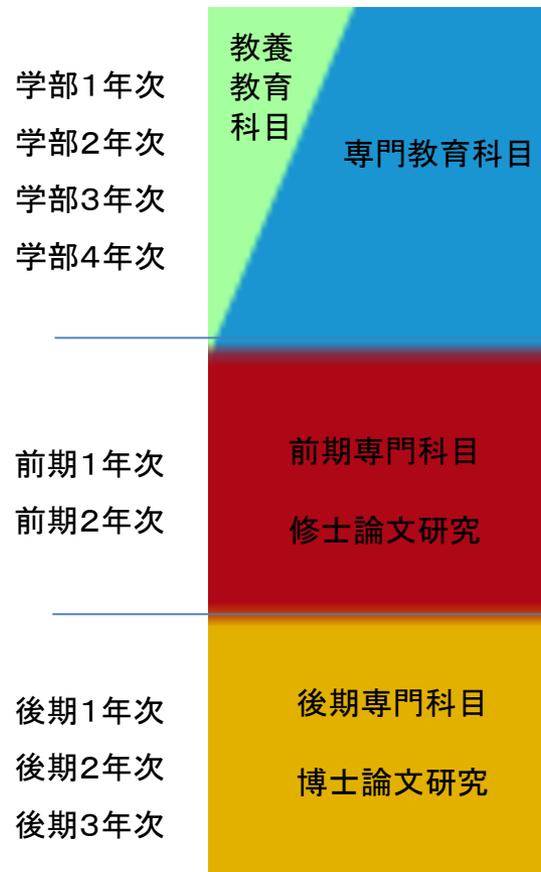
全学教育改革推進体制



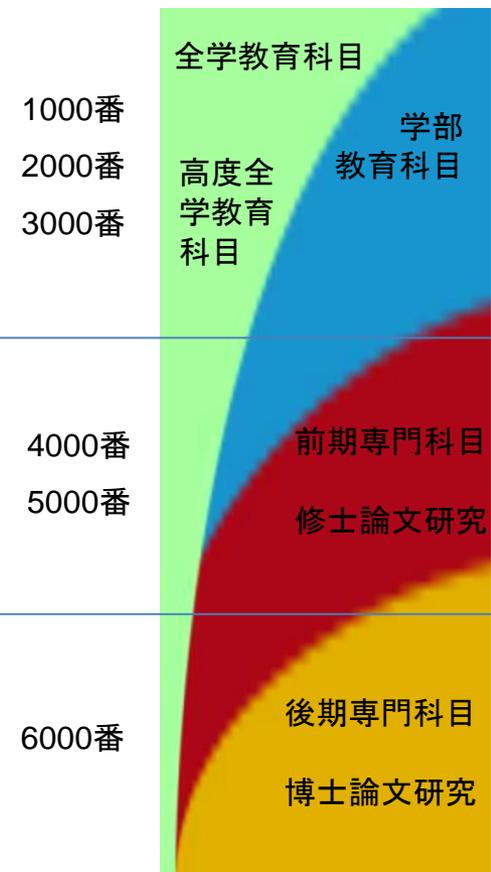
教育課程の体系化へ（H29年度）

- 3ポリシー（AP・CP・DP）の見直し
- 科目ナンバリング導入＋カリキュラムツリーの見直し

現行教育イメージ

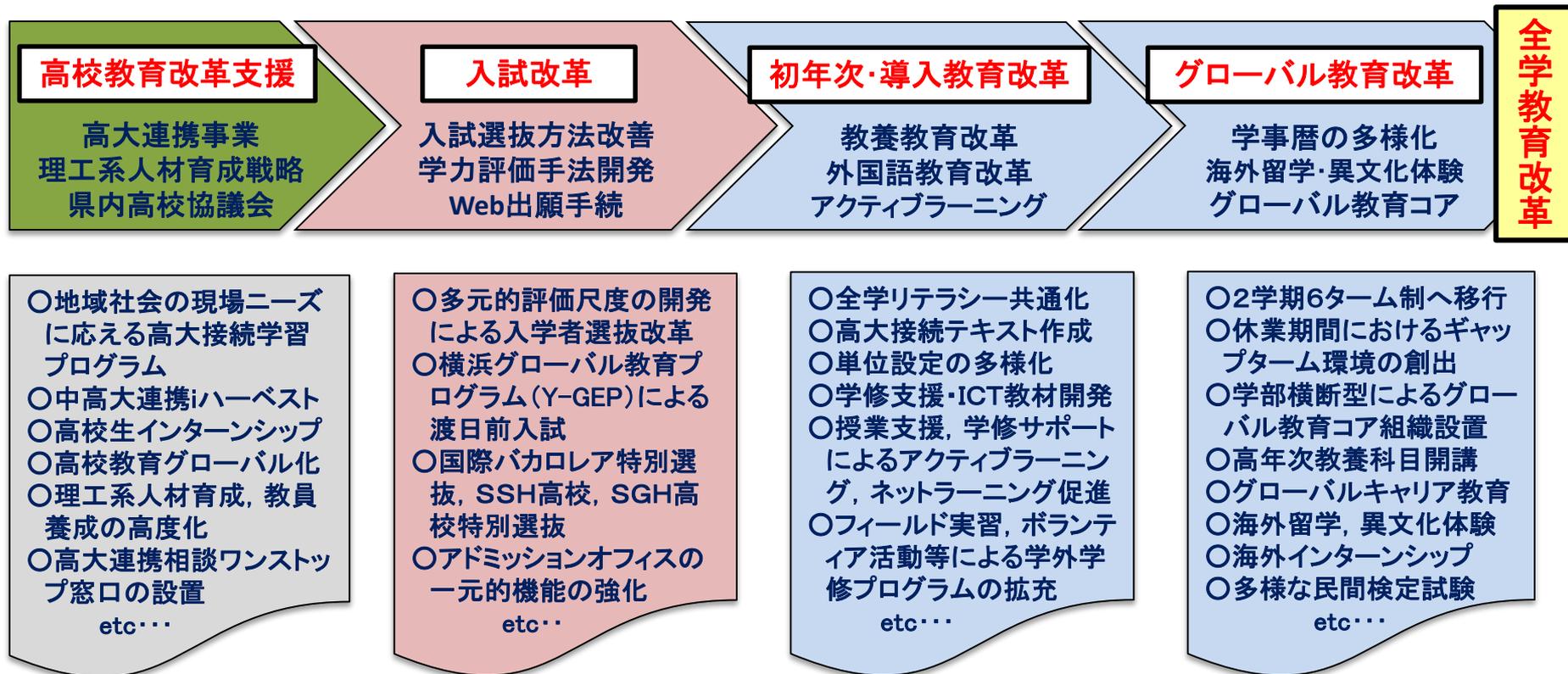


ナンバリング導入のイメージ



高大接続を実現する初年次教育改革

高大接続を高度化する全学教育改革推進事業



高大接続・全学教育推進センターが推進

4. 学位プログラム中心の授業編成 に向けて



教育の質的転換への取り組みと課題

- ① 学士力・就業力の可視化と、授業設計と成績評価の改善を更に進める
分析をもとにした提案（メッセージ）の発信
→ I R活動を推進する体制の拡充が課題
- ② キャリア教育の再体系化を図る
学生の学び（学修）、キャリア形成を支援する学修支援体制
→新学修支援チーム（構想中）
- ③ 全学的な教学マネジメント体制を確立する
学生 I Rと学修支援体制の拡充
→学生 I Rを軸とする高大接続・全学教育推進センターの組織改革を実行

現状：システム作りと情報整理

- ① 教員中心の授業科目編成から、**学位プログラム中心の授業科目編成**への転換へ
- ② 学修成果の可視化，成績評価の改善・見える化，教育課程の体系化，組織的教育の確立などの**全学的教学マネジメントの改善**

(H28:授業別ルーブリック作成，H29: 3ポリシー改訂，H29:科目ナンバリングの導入・カリキュラムマップ改訂，シラバス改善)

- 
- ・ **教員個人と教員組織における教育内容そのものへのマネジメント意識の共有**
 - ・ **学生に向けた様々な学修成果の可視化のみならず，教職員組織内における授業科目の相互改善へ**

授業科目の相互改善には

(外的)

- ① Discipline (学問分野) からのアプローチ
「分野別の質保証」へ
- ② 社会からの評価, 問題点の明確化, 授業方法 +
授業内容の調整・改善
Competence (獲得能力) / Competency (社会
人基礎力) と授業内容とをチューニングする方向へ

(内的)

- ③ すべての教職員が参画する教学マネジメント体制へ

すべての教職員の参画に向けて

教員：各授業

- 関連する授業とのつながり
- カリキュラム編成
- 他分野との相違

職員：職務

- 経験・関連職務とのつながり
- 教員との関わり

経験知と
関心の拡大
(底上げ)

所属組織（学科,学部,課など）を超えた関心と視野
→次を見据えることが重要

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせはこちらまで
ynu-ap@ynu.ac.jp
(大学教育再生加速プログラム支援室)



【補足説明】

成績評価の厳格化，評価の見える化
に向けた全学的な取り組みと
I R活動の推進



実りあるYNU学士課程教育をめざして

- 多様な価値観を理解し、高い倫理観を養い、総合的・創造的な能力を身につけるため、**先進的な研究成果を取り入れた教育**を実施します。
- 学際的な能力を身につけ広い視野を持った人材を育てるため、主専攻に加え、**課題探求能力の育成に対応する副専攻プログラム**などを充実させます。
- 課題を探求し、柔軟に思考し、独創的に解決する能力を育むため、**対話型・学生参加型の授業**を計画的かつ効果的に実施します。
- 自らの学びが世界に開かれたものとなるよう、**高いコミュニケーション能力と国際性を育成する教育**を全学的に展開します。
- 学生の資質に応じた自己実現を支援するため、**職業観、人生観、社会観の醸成を図るキャリア教育**を入学時から実施します。

学士力・就業力の可視化とI R活動

現況は・・・

- 各部局で学生を対象として様々な調査を行っているが、体系的な分析と分析をもとにした提言の発信には至っていない。
- 平成26年度大学教育再生加速プログラム（テーマⅡ：学修成果の可視化）に採択され、**学士力の可視化、就業力の可視化に取り組んでいる中、教学I R体制を整備し、データ整理を行うことが不可欠な状況にある。**
- 図書文献情報（図書館）、研究I R（研究開発推進機構）の分析と体制整備が先行している。

IR活動の推進に向けて

学内にある様々なデータを活用して分析する

直接評価データ：学生の成績，GPA，履修状況

間接評価データ：大学IRコンソーシアムの学生調査データ，
就業力アセスメント（PROG），卒業時アンケート，
各部局での調査，学生による授業アンケート，
教養教育アンケート，進路調査票 等



IR活動を推進するためセンター一丸となって取り組む

（目的）教学改革支援，内部質保証のチェック機能，
学生支援，学修成果の可視化支援

**分析をもとにした提案（メッセージ）の発信が今後
重要なミッション**

— 入口から出口まで質保証を伴った大学教育を実現するためのIR（分析・評価） —

質保証：大学教育の課題

- ✓ 入口の課題：主体的な学びの醸成
- ✓ 出口の課題：就業力（特に対人基礎力）の強化

質保証：社会からの要請

- ✓ 就業力：主体的に考え動ける人材
- ✓ グローバル人材：主体的な状況適応力

学生IRにより

- ① 学士力・就業力を可視化
- ② 学修成果を検証
- ③ PDCAサイクルの構築

学士力の分析指標

- アドミッション・ポリシー
- カリキュラム・ポリシー
- ディプロマ・ポリシー

就業力の分析指標

- 学ぶ目的と将来が繋がっているか
- 他人と係わる力が伸びているか
- 主体的に思考し、行動できているか

入学者選抜から卒業後まで、学生にフォーカスしたIR



学生IRがめざすこと：大学教育の質保証の課題

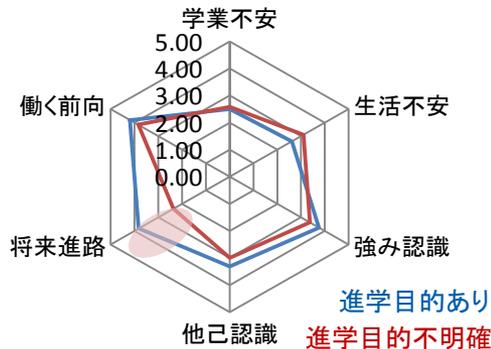
— キャリア教育の再体系化，産業界ニーズ事業，AP事業からわかったこと —

入口の課題：主体的な学びの姿勢の醸成

- ✓ 入学段階で学生の意欲が2・6・2に分かれている
- ✓ 進学目的が明確な学生は将来の進路も明確。学ぶ目的と将来をつなげて考えていると推測

↓
将来の進路と学業の係わり
 を認識させることで、主体的な学びに誘う

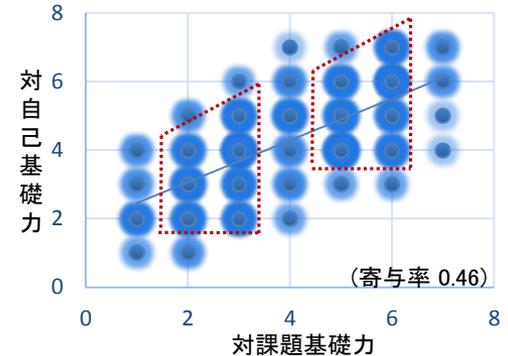
入学段階の意識：進学目的との関係



出口の課題：就業力（特に対人基礎力）の強化

- ✓ 学年進行に伴い、コンピテンシーを伸ばす学生、伸び悩む学生に二極化
 - ✓ 対人基礎力，對自己基礎力で差が目立ち，自己認識と他人と係わる力がたりないことが二極化要因
- ↓
 アクティブ・ラーニングにより**対人基礎力を強化**しコンピテンシーを伸ばす

對自己/対課題基礎力の相関

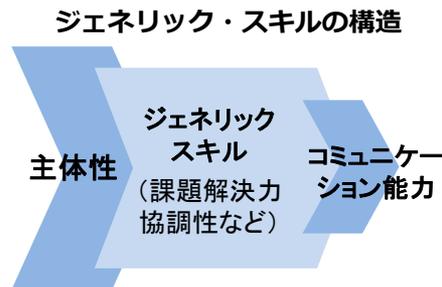


学生IRにより分析・対策立案 + (実行) + 効果検証・改善策立案

産業界ニーズ：主体的に考え、行動できる人材

- ✓ 主体性が原動力となってジェネリック・スキル群を発動させ、コミュニケーション能力により周囲に働きかけられる
- ✓ 若手社員は「主体性」をイメージできない

↓
 学業を通じて「**主体性**」を獲得させ、社会で活躍できる人材を輩出する

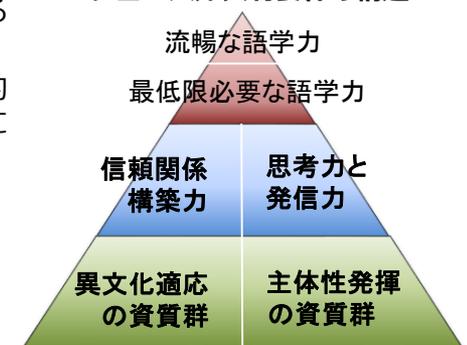


グローバル人材ニーズ：主体的な状況適応力

- ✓ 日本中心の発想から脱却し、地球規模で思考し行動できる人材の育成
- ✓ 英語力よりも、教養や論理的思考力の強化、異文化状況に主体的に適応する力

↓
 学業を通じて**異文化に触れる機会**を増やし、グローバル環境で主体的に行動できる人材を輩出する

グローバル人材要件の構造



「授業設計と成績評価ガイドライン」

- 教員間に成績評価の基準にばらつきがあることが、教務厚生部会において問題に・・・
- ガイドラインの策定・導入を通して学生の学びの充実につなげ、学生の学修成果を全学一体で高める
- 教学マネジメントチーム会議にて導入を決定

平成27年度

授業設計と成績評価

ガイドライン

国大生の学びの充実に向けて

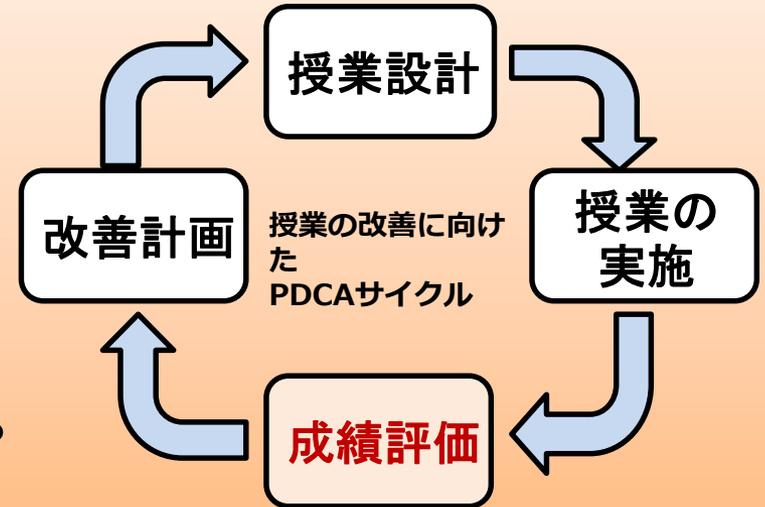


大学教育再生推進プログラム

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

ガイドラインの要点

- **授業設計の考え方を周知**
 → 授業改善に向けたPDCAサイクルを意識して、より質の高い授業へ工夫と改善を重ねていく。



- **「成績評価の基準表」を全学で導入**

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

ガイドラインの要点

● 授業ごとに「授業別ルーブリック」を導入

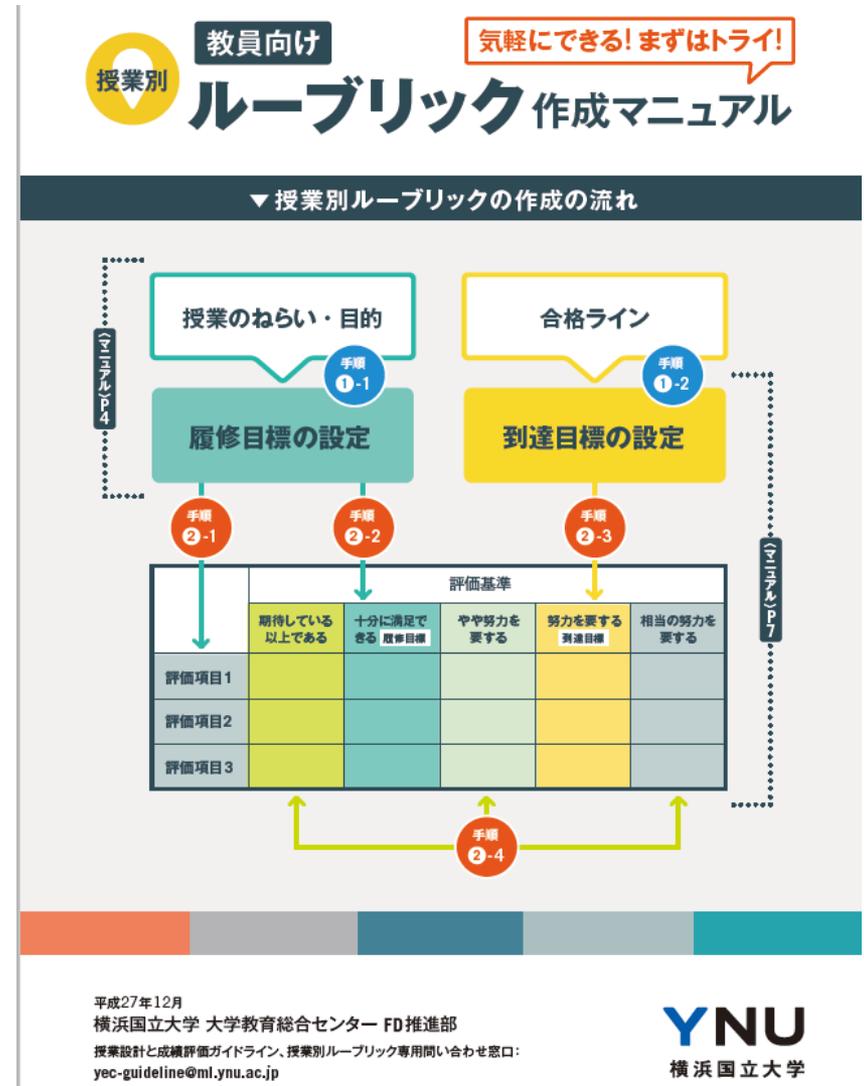
- 授業担当教員がルーブリックを作成し、電子シラバス上で学生に公表
- 学生と教員間で成績評価の基準を共有
- 授業科目（内容、評価基準・項目）の可視化

● 電子シラバスを改修

- 授業別ルーブリックの作成機能を追加
- 授業外に学修すべき内容を学生に明示
- 学生に「成績評価の基準表」を公開

授業別ルーブリックの作成

- 授業科目の可視化へ、成績評価の改善と評価の見える化を図る。
- 成績評価の基準を学生に明確にすることにより、授業時間内外で主体的な学びを促す。
- ルーブリックを教員が手軽に作成し、授業改善に活用できるように、作成マニュアルを用意



教育課程の体系化へ

- 3ポリシー（AP・CP・DP）の見直し
- 科目ナンバリング導入＋カリキュラムツリーの見直し

1000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎初年次・導入科目 ◎学部学生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、英語力を身に付ける
2000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎／専門基礎科目 ◎学部教育における基礎知識や専門基礎力、発想力、語学力を身に付ける
3000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎専門科目 ◎学部教育で展開する専門知識と創造力、幅広い教養、表現力を身に付ける
4000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎博士課程前期／専門職学位課程基礎科目 ◎大学院生として必要な知識とプロフェッション意識を身に付ける
5000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎博士課程前期／専門職学位課程専門科目 ◎専門分野及び関連する他の分野における知識と課題を発見する能力、専門分野における先端的事象について調査・研究を遂行する能力を身に付ける
6000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎博士課程後期専門科目 ◎専門分野において国際的に通用する水準で自立して研究を遂行し、その成果を世界の舞台で発表・発信する力、先端的または最新の学理について国際的に通用する水準の知識を身に付ける
9000 番台	<ul style="list-style-type: none"> ◎海外留学や語学検定など、放送大学科目等